

メモ

孤立死が発生した部屋の原状回復などの費用を貸主に補償する保険の運用状況について「日本少額短期保険協会」（東京）が調べたところ、2015年4月～17年1月に同協会が把握した孤立死者1095人のうち、20～50歳代で4割を占めた。孤立死した人の遺品整理を年間200～300件行っている「キーパーズ」（同）の吉田太一社長（53）は、「現役世代では、特に40～50歳代の男性が目立つ。部屋が散らかって他人が出入りした様子がないなど、人間関係の希薄さをうかがわせることが多い」と話す。